

Ⅱ 国語の問題と 調査結果・分析等

分析ページの構成と見方について

1 「設問のねらいと評価」について

- ◎ 「大問・領域」には、「読むこと（文学的文章）」「読むこと（説明的文章）」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項（漢字の読み書き）」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項（漢字の読み書き以外）」「書くこと（条件作文）」の5領域を、「設問のねらい」には小問ごとの設問のねらいを、「評価」の項目には、「国語への関心・意欲・態度」「話す・聞く能力」「書く能力」「言語についての知識・理解・技能」の5観点に該当するものを○印で示した。

2 「調査結果の概要と分析」について

- ◎ 調査結果の概要と分析については、「全体（教科全般）」「領域別（領域や内容別）」「継続して見られる課題」を示した。

（◇：良好な結果がみられた点 ◆：課題がみられた点 ○：指導のポイント）

3 「領域別調査結果の指導のポイント」について

- ◎ 大問ごとに設問・正答・結果・誤答例等について左ページに、その考察（分析・指導のポイント）について右ページ以降に記した。

※ 分析等では、小数第2位を四捨五入した調査結果を用いている。

（※誤答例は、抽出生徒の主な誤答について頻度の高いもの）

1 設問のねらいと評価

評価の観点 1…関心・意欲・態度 2…話す・聞く能力 3…書く能力
4…読む能力 5…言語についての知識・理解・技能

領域	大問	小問	設問のねらい	評価の観点				
				1	2	3	4	5
(文学的文章) 読むこと	1	問1	表現に注意しながら文章を読み、登場人物の心情を正確にとらえることができる。				○	
		問2	叙述に沿って、文章の内容を正確に読み取ることができる。				○	
		問3	表現の仕方や文章の特徴に注意しながら、登場人物に関する描写について正確に読み取ることができる。				○	○
		問4	読み取った事がらにに基づきながら、登場人物の心情や行動について説明することができる。			○	○	
		問5	文章全体を把握し、主人公とその他の登場人物の人間関係を理解できる。				○	
(説明的文章) 読むこと	2	問1	説明的文章における論の展開を正確に読み取ることができる。				○	
		問2A	論の展開に沿って、適切な接続詞を入れることができる。				○	○
		問2B					○	○
		問3	文章中で説明されている内容を整理することができる。				○	
		問4C	文章中の内容を整理し、必要な情報を正しく読み取ることができる。				○	
		問4D	与えられた情報を自分の頭で再構成し、正しくまとめることができる。				○	○
(漢字の読み書き) 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	3	1	小学校6年生までに学習した漢字を正しく書くことができる。					○
		2						○
		3						○
		4						○
		5	小学校6年生までに学習した漢字を正しく読むことができる。					○
		6						○
		7						○
		8						○
(漢字の読み書き以外) 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	4	問1	同音の漢字の意味の違いを捉え、文脈に沿って適切な漢字を選ぶことができる。					○
		問2	旧仮名遣いを理解し、正しく読むことができる。					○
		問3	文の構造を理解し、正しく表現することができる。				○	○
		問4	慣用句の意味を正しく理解し、適切に表現することができる。					○
		問5	漢字の書き順を理解し、正しく書くことができる。			○		○
文(条件) 書くこと	5		表の内容を正しく理解し、読み取った情報について、自身の意見を加えながら、筋道立てて文章を書くことができる。	○		○	○	○

2 調査結果の概要と分析

全体		◇文章を叙述に則して正確に読み取り、理解することについては、全体的に満足できる状況にある。 ◇文章中の表現の特徴に注意しながら登場人物の心情を読み取ることについては、おおむね満足できる状況にある。 ◆抽象的な表現から文章の具体的な表現を読み取る問題では、正答率が低かった。 ◆読み取った内容について、自分の考えを筋道立てて説明する力に課題がみられる。 ◆漢字の読み書きについて、基本的なトメ・ハネ、音・訓読みの違い、書き順といった基本的な知識の定着に課題がみられる。
領域別	読むこと 文学的文章	◇「表現の仕方や文章の特徴に注意しながら登場人物の心情について読み取る問題（1問3）」では 72.8%、「表現に則して、文章の具体的な内容をとらえる問題（1問5）」では 87.8%と、ともにおおむね満足できる状況にある。 ◆「読み取った事ごとに基つきながら、登場人物の心情や行動について説明する問題（1問4）」の正答率は 49.8%で、読み取った内容を整理し、再構成する力に課題がみられる。 ○文章の内容に沿って解釈し、自分の考えをもてるようにするために、単語や短い言葉で答えさせるだけでなく、根拠を明確にして説明させたり、意見を交流させたりする言語活動を計画的に行う。
	読むこと 説明的文章	◆「説明的文章における論の展開を正確に読み取る問題（2問1）」の正答率は、39.1%で、説明的文章の特徴である「序論—本論—結論」という流れを整理して読み取る力に課題がみられる。 ◆「与えられた情報を自分の頭で再構成し、正しくまとめる問題（2問4D）」の正答率は 28.3%であり、展開に即して文章の内容を整理する力に課題がみられる。 ○指示語等に注意しながら、筆者の論がどのように展開していき、どのような根拠からどのような結論を導き出したかを読み取ると同時に、読み取った文章について自分の考えをもつ力の育成が必要である。
	質に関する事項 伝統的な言語文化と国語の特徴	◇小学6年生までに学習した漢字を読むことについては、できていた。 ◇「慣用句の意味を正しく理解し、正しく表現する問題（4問4ア）」の正答率は 83.3%であり、知識として言葉を理解することについては、おおむね満足できる状況にある。 ◆正しく書くことについては、選択肢より解答した「納める」が 82.1%であったのに対し、記述により解答した「専門」が 52.8%、「飛」の書き順を答える問題の正答率は 36.9%と、正確に理解することに課題がみられた。 ○文章を書く際に、正しい表記や言葉遣い、文法等を意識しながら書く習慣を身に付けさせる必要がある。
	書くこと	◇表を見て、それに自分の意見を述べることについては、おおむねできていた。 ◆主述の関係を整え、筋道立てた文章を書くことに課題がみられる。 ○「書くこと」の言語活動を積極的に取り入れることにより、考えや感想を論理的に説明したり、文章で書き表したりする機会を増やす。
継続してみられる課題		◆読み取った内容を頭の中で整理・再構成して、それを根拠としながら自分の意見を筋道立てて説明する能力が不足している。 ◆漢字の書き順やトメ・ハネを意識し、正確に書く能力が不足している。また、言葉を構成する文法についての基本的な知識についても理解が不足している。 ◆複数の情報を読み取り、頭の中で整理・再構成し、さらにその中から必要な情報を取り出し、自らの意見の根拠とする力に課題がみられる。また、原稿用紙の正しい使い方についても課題がみられる。

3 領域別調査結果の指導のポイント

(1) 読むこと【文学的文章】

大問・領域	小問	問 題	正 答	主な誤答例	自校の正答率	市の正答率	市の無解答率	設定通過率
1 書くこと 文学的文章	問 1	「とっさに一步後ずさる。」から読み取れる、まゆ子の古本屋の主人に対する感情を表す言葉を文章中から二字で書き抜きなさい。	苦手	ああ 注意		57.9	8.0	70
	問 2	「困ったくせ」について具体的に説明している一文を文章中よりさがし、最初の五文字を書き抜きなさい。	この古本屋	この人は、		61.2	3.8	70
	問 3	「自転車に乗った女の人 が、チリリン、とわきを 通りすぎていった。」とい う一文は、どのような様 子を強調する効果がある か、最も適切なものを、 記号で書きなさい。 ア 二人が街中でまった く目立っていない様子 イ 二人が街中の通行の 迷惑になっている様子 ウ 二人がしばらくの 間、沈黙している様子 エ 二人が駄洒落を言っ て楽しんでいる様子	ウ	イ		72.8	1.0	70
	問 4	「けげんそうな顔」とありますが、「この時、ナオコ先生は、まゆ子のどのような様子を「けげん」に思ったのでしょうか。文章中の言葉を使い、最後が「～様子」に続く形で、三十字以上四十字以内で書きなさい。	ナオコ先生の顔がお地蔵さんに似ていると思 い、思わずふきだしそうになっている(様子)	大福を食べているナオコ先生を見て、まゆ子がふきだしそうになっている(様子)		49.8	11.8	60
	問 5	この文章から読み取れる、古本屋の主人やナオコ先生、まゆ子への接し方として適切なものを記号で書きなさい。	エ	イ		87.8	1.0	60

(単位：%)

読むこと【文学的文章】

問題

<資料文について>

市川朔久子『よるの美容院』の一節である。

小学六年生のまゆ子は自分の不注意から友人を交通事故にあわせてしまったことが原因で、言葉を発することができなくなってしまう。両親は、まり子を「こでまり商店街」で「ひるま美容院」を経営する親戚のナオコ先生のもとに預け、閉ざされた心を変えようとする。ある日のこと、まゆ子は、ナオコ先生から栗大福を買ってくるよう頼まれる。その帰り道、まゆ子は、苦手な古本屋の主人に出会ってしまう。まゆ子が声を出せないことを知っているはずなのに、駄洒落をぶつけて反応をみるなど特別扱いはしない。自分の殻に閉じこもっていたまゆ子は、こでまり商店街の人々と接する中で、心を少しずつ開いていく。

資料文については、①主人公とまわりの登場人物の様子や行動が生き生きと描かれており、人物像や人間関係、心情の変化などが生徒の興味関心をひきつけ、生徒は理解しながら読み進めることができる②心情描写が丁寧に書かれていて、さらに情景描写からも心情を読み取れるという観点で選定した。

問 1

①「とっさに一歩後ずさる。」から読み取れる、まゆ子の古本屋の主人に対する感情を表す言葉を文章中から二字で書き抜きなさい。

分析

表現に注意しながら文章を読み、登場人物の心情を正確にとらえることができるかをみる問題である。文章中から二字で抜き出して答える問題であるが、傍線部の近くに解答がないため、正答率が57.9%と低く、無解答率も8.0%と高かった。主な誤答は「ああ」という感動詞に注目し、「ああ、つかまっちゃった。」という一文の最初の二字を抜き出したと思われる。また、要注意人物という言葉の「注意」という感情を表す言葉ではないものを抜き出したものもあり、正しく語彙を把握していないように感じられる。大まかな内容は理解しているが、細かい内容を読み取る力が不足していると考えられる。

問 2

②「困ったくせ」とありますが、そのことについて具体的に説明している一文を文章中よりさがし、最初の五文字を書き抜きなさい。

分析

叙述に沿って、文章の内容を正確に読み取る問題である。正答率は61.2%であった。主な誤答として、「この人は、」を答えたものが多かった。「この人は、地声も大きい。」という文の、副助詞の使い方がわからず、「困ったくせ」以外に、「地声も大きい」という意味を理解できていないと考えられる。また、「一文をさがし、最初の五文字を」という解答の指示に反して、一文の途中の「通りすがり」を答える誤答があった。問題文を読み取る力が不足していると考えられる。

問 3

③「自転車に乗った女の人が、かごからネギをはみ出させたまま、チリリン、とわきを通り過ぎて行った。」という一文は、この場面において、どのような様子を強調する効果がありますか。次のア～エの中から最も適切なものを一つ選び、その記号を書きなさい。

- ア 二人が街中でまったく目立っていない様子
- イ 二人が街中で通行の迷惑になっている様子
- ウ 二人がしばらくの間、沈黙している様子
- エ 二人が駄洒落を言って楽しんでいる様子

分析

表現の仕方や文章の特徴に注意しながら、登場人物に関する描写について正確に読み取ることができるかを見る問題である。選択式で解答する問題ということもあり、正答率は72.8%であった。しかし、読み取りが浅く、質問にある「この場面において」の意味をとらえることができない生徒もいた。文章における表現効果を読み取る力をつける必要がある。

問 4

④「けげんそうな顔」とありますが、「けげん」とは「不思議そうにするさま」という意味の言葉です。この時、ナオコ先生は、まゆ子のどのような様子を「けげん」に思ったのでしょうか。文章中の言葉を使い、最後が「～様子」に続く形で、三十字以上四十字以内で書きなさい。

分析

読み取った事ごとに基つきながら、登場人物の心情や行動について説明する問題である。正答率は、49.8%であり、文学的文章の問題の中で、最も低かった。昨年度の記述式問題(25字以上30字以内で心情を答える問題)と比較すると正答率が11.1ポイント上がっているが、記述量が増えたため、無解答率は11.8%で、昨年度の8.6%より上がっている。

○主な誤答例について

①文字数不足のもの

＜例＞「お餅を前にしたナオコ先生がお地蔵さんに思えてくる(様子)」(24字)

②ふきだしそうになった理由が述べられていないもの

＜例＞「大福を食べているナオコ先生を見て、まゆ子がふきだしそうになっている(様子)」
「和三堂の栗大福を食べているまゆ子が急にふきだしそうになっていた(様子)」

③「様子」につながらないもの

＜例＞「ナオコ先生の顔がお地蔵さんに見えてきて、思わずふきだしそうになった。」

具体的な読み取りができず、「ふきだしそうになった」理由が書けていない。誤答には、文字数が不足しているものや文末表現の誤りが多く、「～様子」に続く形でという問題文の指示に合わせて適切に記述することに課題がみられた。大まかな内容は理解できているが、「キーワード」となる言葉をきちんととらえられず、読み取り不足であると考えられる。

問 5

この文章から読み取れる、古本屋の主人やナオコ先生の、まゆ子への接し方として適切なものを次のア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。

- ア まゆ子に世の中の厳しさを教えるために、様々な課題を与え、常に厳しく接している。
- イ まゆ子の特別な事情をよく理解して、まゆ子を気づかい、常にやさしく接している。
- ウ まゆ子がよく手伝いをし、礼儀正しいことをほめ、励ましの気持ちをもって接している。
- エ まゆ子を特別扱いせず、同じ商店街で生活する一人の人間として、自然に接している。

分析

文章全体を把握し、主人公とその他の登場人物の人間関係を理解できるかを見る問題である。選択式で解答する問題ということもあり、正答率は87.8%と高く、設定通過率を大きく上回った。

古本屋の主人が、「まゆ子の声が出ないことも知っているはずなのに、そんなのおかまいなしだった。」という部分から、特別扱いしないで、普段と変わらずまゆ子に接している様子を読み取ることができたと思われる。主な誤答としては、ナオコ先生と栗大福を食べる場面での、「ナオコ先生の目が、うれしさでこれ以上できないくらいに細くなった。」や「まゆ子とナオコ先生は満足そうにお茶をすすり、同時にほうっと息をついた。」という部分から、「やさしく接している」を選んでしまったようである。文章中の表現を根拠として考えていくことに課題があると考えられる。

指導のポイント

- 文章の内容を正確に読み取るために、日頃から、登場人物の行動や心情、人間関係など具体的な表現に着目させる。
- 接続詞や助詞の使い方、主述の関係に注目するなど、授業の中で、文法に関する指導を意識的に行う。
- 語彙力を高めるために、短文づくりや辞書の活用を行う。
- 読み取った内容について、いくつかの視点を提示し、要約する活動を行う。
 - ＜例＞・主人公以外の人物の視点で読み取る。
 - ・心情を中心に読み取る。
 - ・情景描写を中心に読み取る。
 - ・行間を読み取る。(文章表現を基に想像しながら)

(2) 読むこと【説明的文章】

大問・領域	小問	問 題	正 答	主な誤答例	自校の正答率	市の正答率	市の無解答率	設定通過率
2 読むこと 説明的文章	問 1	この文章は、内容の上で序論（はじめ）、本論（中）、結論（終わり）の三つのまとまり（意味段落）に分けることができます。 <u>結論の書き出しに当たる段落</u> を探し、 <u>始めの四字</u> を書き抜きなさい。	わたしは	そして十 ホテルは ホテルを		39.1	5.6	60
	問 2 A	文章中の[A]、[B]に当てはまる言葉としてふさわしいものを次のア～エの中から一つずつ選び、それぞれの記号を答えなさい。	イ	ウ		96.8	0.7	70
	問 2 B	ア さらに イ でも ウ つまり エ ところで	ア	ウ		78.0	1.0	70
	問 3	①「さまざまな工夫」として筆者が述べている事ごうはいくつありますか。その数字を書きなさい。	四 *算用数字による解答も可とする。	三 五 六		42.6	2.7	60
	問 4 C	次の文章は、田中さんがこの文章を読んで、学んだことをクラスで発表した原稿です。 <u>[C]に当てはまる言葉としてふさわしいもの</u> を次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。また[D]に当てはまる	ウ	ア		87.9	1.3	70
	問 4 D	<u>言葉を文章中から十五字以内</u> で探し、書き抜きなさい。 ア 対立 イ 競争 ウ 共生 エ 調整	人の手が加えられてきた自然	人里の自然を考え直すこと		28.3	15.2	60

(単位：％)

読むこと【説明的文章】

問題

＜資料文について＞

大場信義『ホタルの里』からの抜粋である。小学校の総合的な学習の時間等でも利用され
ると思われる図鑑に載っている文章である。ホタルは人里の昆虫であり、ホタルを人里に戻
す試みを通して、自然と人間の共生について筆者は述べている。

この文章は、序論と結論がはっきりとしており、段落構成がわかりやすい。また、ホタル
という子どもにとって身近な題材を扱っていて読みやすい。一方で、ホタルに対する筆者の
思いが随所に述べられているため、事実と筆者の思いを分けて読み解くことが必要である。

問 1

この文章は、内容の上で序論（はじめ）、本論（中）、結論（終わり）の三つのまとまり（意
味段落）に分けることができます。結論の書き出しに当たる段落を探し、始めの四字を書き
抜きなさい。

分析

説明的文章における論の展開を正確に読み取る問題である。正答率 39.1%で、設定通過率 60%
を下回った。この文章は、一つ一つの事実に対して筆者の思いが述べられている。したがって、
文章全体をよく読み、構成をとらえることが重要である。しかし、「そして十年後」という言葉に
着目し、時間の経過を根拠として本論の中の結論部分を抜き出してしまった生徒が多く見られた。
筆者の主張は文章全体の最後のほうにあることは理解できていたが、筆者の主張が何かをとらえ
られなかった結果、適切に抜き出すことができなかったと考えられる。

段落と段落、文と文とのつながりを意識して、文章全体の構成をしっかりと考えて読むことが課題
である。

問 2

文章中の 、 に当てはまる言葉としてふさわしいものを次のア～エの中から一つ
ずつ選び、それぞれの記号を答えなさい。

ア さらに イ でも ウ つまり エ ところで

分析

論の展開に沿って、適切な接続詞を入れる問題である。正答率は、 が 96.8%、 が
78.0%であった。 については、前文と 以降の文が全くつながらないので、生徒は容
易に逆接の接続詞であることを理解できたと考えられる。しかし、 については、「……掘
り返されたりすることも」の副助詞「も」に着目せず、ヒメボタルが大量発生した理由の付け加え
に気付くことができなかったものと考えられる。

問3

①「さまざまな工夫」として筆者が述べている事からはいくつありますか。その数字を書きなさい。

分析

抽象的な表現が指し示す、具体的な内容を読み取る問題である。正答率は42.6%で、設定通過率60%を下回った。「さまざまな工夫」の具体的な内容は、傍線①の直後の形式段落の中に説明されている。全部で4つあるが、以下の文に注目してほしい。

[工夫1 > 川は片側の岸が森に接するようにし、くねくねと曲げました。] [工夫2 > 川の土手には、中に土が詰まるブロックを使いました。] [2の補足 > ホタルが卵を産んだり、さなぎになるには、草やこけの生えた土手が必要だからです。] [3の指示語「そこ」の説明 > 川底には材木で小さな囲いを幾つもつくりました。] [工夫3 > そこに土を盛り、水辺の植物を植える「寄州」にしたのです。] [3の補足 > そうすることで、川は緩やかに流れ、ホタルの幼虫のえさとなる貝が増えやすい環境になりました。] [工夫4 > さらに、住宅地に下水道を通し、汚れた水が入らないようにしました。]

一つ一つの文のつながりや役割を意識できていないことが、誤答につながっていると考えられる。

問4

次の文章は、田中さんがこの文章を読んで、学んだことをクラスで発表した原稿です。

に当てはまる言葉としてふさわしいものを次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。また、 に当てはまる言葉を文章中から十五字以内で探し、書き抜きなさい。

筆者は、人間と自然との をテーマにこの文章を書いたのではないのでしょうか。ホタルは人里の昆虫と言われ、ホタルと人との生活の結びつきは、予想以上に強いと筆者は言っています。人間が生活していくうえで周りの環境は年々変わっていきませんが、人間が生き物の環境を整えること、つまり、 が、実は、ホタルを守っているのだということがわかりました。

【 に当てはまる言葉】

ア 対立 イ 競争 ウ 共生 エ 調整

分析

と は関連した問題である。 に関しては、文章中の内容を整理し、必要な情報を正しく読み取る問題で、正答率が87.9%と高かった。しかし、生徒が「共生」の意味を理解しているのか疑問であり、選択肢の中で知っている言葉を探し、消去法を用いて残ったものを解答した可能性も否定できない。結果として、与えられた情報を自分の頭で再構成し、正しくまとめ

る **D** に関する問題の正答率が 28.3%と設定通過率 60%を大きく下回り、また、無解答率が 15.2%と今回の調査問題の中で最も高かった。「つまり」という接続詞を言い換えの言葉としてとらえておらず、文章全体のまとめが当てはまると勘違いしていると考えられる。キーワードや事実に対する筆者の思いをおおまかにしかつかんでおらず、記述問題であれば、さらに正答率が低くなったのではないかと予想される。

語彙力を高め、文章全体から要点や筆者の主張をつかむことができるようにすることが必要である。

指導のポイント

- 語彙力を身に付けさせるために、日常のいろいろな場面で、辞書を効率よく用いる。辞書は、たくさんある意味の中で適切なものを選択できたり、似たような言葉についても学習できたりするよさがある。辞書を工夫して使い、身に付けた語彙力を活用する機会も設ける。
- 文法について取り出して学習するだけでなく、学習したことを授業で生かすようにする。例えば、助詞の使い方、作品中の文のニュアンスがどのように変わるのかなどをつかませるとよい。
- 文章全体を読んで内容をまとめたり、必要な情報を取り出したりという授業を行う。

「説明的な文章を読む」ことに関する参考資料

※平成 25 年度全国学力・学習状況調査 報告書【中学校】 国語 B

<http://www.nier.go.jp/13chousakekkahoukoku/data/research-report/13-j-language-05.pdf>

1 説明的な文章を読む（いろはかるた）より抜粋

学習指導に当たって

文章を読んで新たな課題を見いだす

文章を読んでもものの見方や考え方を広げるには、読んで理解したことの中から興味や関心を広げ、新たな課題を見いだすように読む必要がある。そのためには、文章を読んで理解できたこと、疑問点や関心をもったことなどを整理することが大切である。その上で、ものの見方や考え方を広げる課題かどうか、解決の見通しがあるかどうかなどを助言し合うような学習活動が考えられる。

調べる手段の特徴を理解し、見通しをもって情報を集める

課題を解決するために情報を収集する際には、情報を収集する手段の特徴を理解し、自分の課題の解決に適した手段を選ぶ必要がある。例えば、自分の課題を解決する具体的な手順を考え、それについて検討し合うなどの学習活動が考えられる。その際、情報を収集する複数の手段を用いて、それぞれの手段の特徴について考える場面を設定することが大切である。

指導に当たっては、次の事例も参考になる。

(参照)

「言語活動の充実に関する指導事例集～思考力、判断力、表現力等の育成に向けて～
【中学校版】」国語－ 9, P. 35～P. 36

(3) 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

大問・領域	小問	問 題	正 答	主な誤答例	自校の正答率	市の正答率	市の無解答率	設定通過率
漢字の読み書き	3 1	コーヒーの <u>センモン</u> 店。	専門	専門		52.8	7.6	70
	2	ていねいに <u>セイショ</u> する。	清書	正書		62.3	10.7	70
	3	城を <u>キズ</u> く。	築	「はね」なし		65.7	13.1	70
	4	本を <u>カ</u> りる。	借	貸		65.8	4.9	70
	5	<u>景色</u> のよい場所。	けしき	けいしょく		93.1	1.6	80
	6	道路を <u>拡張</u> する。	かくちょう	こうちょう		80.0	4.0	80
	7	やさしく <u>説</u> く。	と	くど		65.0	9.6	80
	8	黒インクを <u>用</u> いる。	もち	よう		78.6	3.3	80
漢字の読み書き以外	4 問1	税金を <u>オサ</u> （ア納イ治ウ収エ修）めることは、国民の義務です。	ア	ウ		82.1	0.7	70
	問2	一線部を現代仮名づかいに直して、全てひらがなで書きなさい。 よろづの <u>ことにつかひ</u> けり。	つかいけり	つかいます		70.9	5.0	80
	問3	次の二つの文の内容を、一文で表すとどうなりますか。 バスは一時間に一本しか来ない。だから、私は歩いて行った。	バスは一時間に一本しか来ない <u>ので</u> （から・ため）、私は歩いて行った。	バスが一時間に一本しか来ない <u>が</u> 、私は歩いて行った。		90.5	1.5	80
	問4 ア	「じっとして静かにすること」という意味を表す慣用句を次のア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。 ア息をのむ イ息を殺す ウ息がつまる エ息をぬく	イ	ア		83.3	0.9	70
	問5 イ	次の矢印で示した部分は何画目に書くか、その数字を書きなさい。 	四	九		36.9	1.8	70

(単位：%)

問題 前頁参照

分析

漢字の読み書きは、小学校で既習の学年別配当漢字からの出題である。漢字の読み書き以外の語句に関する問題は、中学校 1 年生の授業内容も含めて幅広く出題した。

3 (漢字の読み書き)

1 の「専門」の正答率は 52.8%と設定通過率よりかなり低く、誤答としては、「専」が「専`」になっていたり、「門」が「問」になっているものが多かった。学習した知識が定着しにくい漢字の一つだ。2 の「清書」の正答率は 62.3%で設定通過率 70%を下回り、平成 20 年度さいたま市学習状況調査の正答率 60%と同様の結果となった。誤答は「清」を「正」と同音の漢字を当てたものが多かった。3「築」は「凡」の部分のハネがない誤答が多かった。4 は正答率が 65.8%であった。「借」は「借りる」だが、「貸す」と漢字の区別がついていないものが多く、平成 24 年度全国学力・学習状況調査(中 3)で出題された際の正答率は 70.8%であった。5、6 の漢字の読みは正答率が高かった。7 の「と」は正答率が 65%、8 の「もち」は 78.6%であり、どちらも設定通過率より低く、音読みより訓読みが苦手な傾向がみられる。

4 (漢字の読み書き以外)

- 【問 1】 82.1%と比較的正確率が高い理由は、「納税」という言葉に知識があり、「納」には金銭に関わる意味が含まれていると推察する力があつたためと考えられる。誤答のウ「収」を選んでしまったのも「収入」という金銭に係る語句だったためと考えられる。平成 19 年度全国学力・学習状況調査(中 3)で同じ問題が出題されており、市の正確率 90.8%、国の正確率 87.5%と比較すると今年度の正確率は下がっている。漢字がもつ意味を理解することに引き続き、課題がみられる。
- 【問 2】 誤答の多くは、問題文の「現代仮名づかい」という指示を正しく理解しておらず、現代語訳を答える問題と判断したことによる。
- 【問 3】 90.5%と正確率が高かつたのは、順接でのつなぎ方を理解していたためと考えられる。誤答の原因は、「接続語には前後の文の内容をつなぐいろいろな働きがある。」ということが理解できておらず、内容に合った適切な接続語を使って一文で表すことができなかったためと考えられる。
- 【問 4】 正確率は高く、「息」を使った慣用句の意味についてよく理解できていた。誤答のア「息をのむ」は、中学校 1 年生で既習の「河童と蛙」で使われていた慣用句であるが、既習の知識を正確に使いこなすことができなかったものと考えられる。
- 【問 5】 「飛」の書き順の正確率は 36.9%と設定通過率 70%を大きく下回つた。昨年度出題された「区」の書き順の正確率も、22.3%と低く、やや上昇したもの、さらに「書く」活動の充実が望まれる。書き順は整つた美しい字を書くことができる一番よい方法である。小学校で既習の筆順の誤りやすい漢字については、中学校に入ってから授業で取り上げて復習する必要がある。

指導のポイント

○漢字の学習について

- (1) 普段から辞書を活用する習慣を身に付けさせる。また、一つの意味だけではなく、文脈に即した語句を活用できるように、短文作り等を取り入れていく。
- (2) 古典学習の基本である、「旧仮名づかい」、「現代仮名づかい」の知識を古典の音読(朗読・群読・朗詠等)を通して楽しみながら理解させる。
- (3) 書き順については、文部科学省から出されている「書き順の手引き」を使い原則を理解させ、誤りやすい漢字については書写指導以外でも、計画的に指導することで定着させる。

○言葉のきまりについて

「言葉」には考えたことや思ったことを多様に表す働きがあることに気付かせ、接続詞や助詞の働きに注意し、文法の学習が日常の文章表現に深くかかわっていることを理解させ、活用できるように指導していく必要がある。

(4) 書くこと

大問・領域	問 題	自校の正答率	市の正答率	市の無解答率	設定通過率															
5 書くこと 条件作文	次の表は、「平成二十二年度全国学力・学習状況調査」における「生活習慣や学習環境に関する質問紙調査」の【質問】「今住んでいる地域の行事に参加していますか。」について、中学三年生が回答した割合を示したものです。この表を見て、あなたの考えをあとの【条件】にしたがって書きなさい。 表 【質問】 次のことは、あなたにどのくらい当てはまりますか。「今住んでいる地域の行事に参加している。」（対象：中学3年生） <table><tr><th>回 答</th><th>さいたま市</th><th>全 国</th></tr><tr><td>①「当てはまる」と回答した割合</td><td>7. 3 %</td><td>1 1. 4 %</td></tr><tr><td>②「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合</td><td>2 0. 9 %</td><td>2 2. 9 %</td></tr><tr><td>③「どちらかといえば、当てはまらない」と回答した割合</td><td>4 0. 4 %</td><td>3 2. 9 %</td></tr><tr><td>④「当てはまらない」と回答した割合</td><td>3 1. 4 %</td><td>3 2. 5 %</td></tr></table> （文部科学省 国立教育政策研究所「平成22年度全国学力・学習状況調査」における「生活習慣や学習環境に関する質問紙調査」結果より） 【条件】 ① 作文解答用紙に、題名・氏名を書かず、本文より書き始めること。 ② さいたま市と全国の回答の割合を比較して、あなたが読み取ったことを一つ取り上げ、自分の経験を踏まえながら、あなたの考えを書くこと。 ③ 原稿用紙の正しい使い方を守って書くこと。 ④ 10行以上で書くこと。 （15行を超えた場合は、欄外に書いてもよい。）	回 答	さいたま市	全 国	①「当てはまる」と回答した割合	7. 3 %	1 1. 4 %	②「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合	2 0. 9 %	2 2. 9 %	③「どちらかといえば、当てはまらない」と回答した割合	4 0. 4 %	3 2. 9 %	④「当てはまらない」と回答した割合	3 1. 4 %	3 2. 5 %		57.0	5.5	60
	回 答	さいたま市	全 国																	
①「当てはまる」と回答した割合	7. 3 %	1 1. 4 %																		
②「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合	2 0. 9 %	2 2. 9 %																		
③「どちらかといえば、当てはまらない」と回答した割合	4 0. 4 %	3 2. 9 %																		
④「当てはまらない」と回答した割合	3 1. 4 %	3 2. 5 %																		

（単位：％）

問題 前項参照

分析 5 【条件作文】

1 資料について

「平成 22 年度全国学力・学習状況調査」における「生活習慣や学習環境に関する質問紙調査」結果から、質問「今住んでいる地域の行事に参加していますか。」という質問に、中学 3 年生が回答した割合を示した表である。

2 出題の意図

表の数字を読み取るだけではなく、さいたま市と全国とを比較して、自分自身の経験を踏まえながら、自分の考えを書くという条件が指定された問題である。表中の情報を正確に読み取り、自分の考えを明確にして、筋道立てて文章を書くことができる力が求められる。

3 結果からみられる課題

正答率は 57.0%で、昨年度の一コマ漫画に描かれていることを読み取る問題の正答率 51.9%を 5.1 ポイント上回った。これは、小学校の社会や算数等で、表やグラフを読み取る学習を行っており、取り掛かりやすかったためと考えられる。しかし、無解答率は 5.5%と昨年の 0.4%から大幅に上昇している。これについては、表を読み取ることに苦手意識をもっている生徒が、取り組まなかったためと考えられる。誤答としては「さいたま市の回答の割合」と「全国の回答の割合」を比較しながら、自分の経験、考えを書くという条件が理解されず、表の比較、または、自分の経験や考えのどちらか一方しか書かれていない作文が多くみられた。

条件作文を書くには、まず何を書くべきかを考えてから文章を構築する必要がある。さらに、論理的な文章を書くためには、論理的な思考が必要である。日常会話では、「結論」を先に述べずに主張を始めることが多い日本語の特性であるため、日頃から論理的な文章を書く活動の積み重ねが望まれる。

○主な誤答例について

①誤字・脱字

②文が長いことによる係り受けの誤り

＜例＞ なぜ、全国での回答は当てはまると言った人より、当てはまらないと言った人のほうが多いかという、私も当てはまらないほうで、私は小さい頃行事にあまり参加していなかった。

③文末の不統一

＜例＞ 近所の人とかかわらないからだ。近所の人協力しあえば参加する人も多くなると思います。

④話し言葉の使用

＜例＞ なので、わたしたちは周り情報交換をすることが大切だ。

指導のポイント

○すべての領域において「書く活動」を積極的に取り入れる。

- ・自分の考えを数字や表を入れて、論理的に説明する。
- ・聞き取った内容を構成を考えてまとめる。
- ・筆者の主張をまとめる。

○伝えようとする内容をより分かりやすくするために、文節を意識させ一文を短く書かせる。

○書いた文章は読み返し、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめる推敲を習慣化させる。

また、互いに読み合い、自分の文章に生かすために交流する活動を意図的に取り入れ、読みやすく分かりやすい文章を書く力を身に付けさせる。